

送辞（転記）

月日が経つのは早いもので、ついにこの日がやってまいりました。

本日、卒団される6年生の皆様、卒団おめでとうございます。

今、卒団される皆さんは、それぞれの団での野球活動をどのように振り返っておられるでしょうか。チームのメンバーとは勿論、多くの人との出会いの中で貴重な体験をし、それぞれの思い出を築き上げられてこられたことと思います。

日々の練習や大会を通じて、机の上の勉強だけでは得ることのできない、「皆と団結する心」、「自分にくじけない心」、「おとうさん、お母さんを含めた周りの人々に感謝する心」、野球を通じて社会に対する礼儀作法を教わったことだと思っています。

ここで培ったことは、これからの人生の中で、必ず生きて来ることだと思っています。

さて、これからは、一人ひとりが自分の夢に向かって進んで行くことでしょう。野球を続ける人もいれば、新たなスポーツや文化的な活動に挑戦する人もいるかと思っています。夢に向かって進んで行く道の

中で、大きな山があり、深い谷があるかもしれない。

しかし、そんな時こそこれまで皆さんが乗り越えてきた、苦しかったことや仲間との絆、監督、コーチから学んだことがきつと役に立つと思います。

どうか、野球で携わったことを生涯の宝とし、信念をもって夢に向かって下さい。

最後に、各務原市野球部会、部会長をはじめ部会の皆様、審判長、審判団の皆様、関係方々には大変お世話になりました。

各団を代表しまして深く感謝申し上げます。

卒団生はじめ皆様のご健康と、さらなるご発展を心よりお礼申し上げ、送辞とさせていただきます。

平成三十一年三月三日

緑陽野球 監督 林健太郎